

Catalyst スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットする

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[はじめる前に](#)

[Cisco IOSソフトウェアによるCatalystスイッチのリセット](#)

[スイッチ設定のリセット](#)

[VLAN 情報のリセット](#)

[冗長モードでの Catalyst スイッチのリセット](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Catalyst スイッチの設定を元の工場出荷時のデフォルト設定に復元することが望ましい状況について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンを使用してテストされています。

注：本ドキュメントは次の Catalyst スイッチを使用して作成されていますが、基本理念は本ドキュメントで言及されている製品に対して適用されます。

- Cisco IOS® ソフトウェアリリース 12.1(19)EA1 が稼働する Catalyst 2950 スイッチ
- Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(20)E が稼働する Catalyst 6500/6000 スイッチ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

表記法

表記法の詳細については、『シスコ テクニカル ティップスの表記法』を参照してください。

背景説明

このドキュメントでは、Catalyst スイッチの設定を元の工場出荷時のデフォルト設定に復元することが望ましい状況について説明します。

これは、スイッチに存在する不適切な設定を削除するときに便利です。スイッチの設定が済んでいて、その設定が非常に複雑な場合や、スイッチを別のネットワークに移動する場合は、そのスイッチを工場出荷時の初期状態にリセットすると、新しいスイッチとして設定できるようになります。このドキュメントでは、スイッチをリセットするための情報とサンプル コマンドのログを示します。

Catalyst スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、物理的なコンソールまたは Telnet 接続のどちらかを使用してスイッチ コンソールにアクセスする必要があります。

これには、コンソール パスワードとイネーブル パスワードも必要です。スイッチのコンソール パスワードとイネーブル パスワードを忘れてしまった場合は、パスワードをリセットするためにスイッチ設定を工場出荷時のデフォルトにリセットすることはできません。

この場合、スイッチのパスワード回復手順の手順を実行する必要があります。Catalyst スイッチでパスワードを回復するには、次のドキュメントを参照してください。

- [Password Recovery Procedures](#)

注：Telnet 接続でスイッチにアクセスしている場合、スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットすると、スイッチへの接続が失われます。

はじめる前に

スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットする前に、次のいずれかの作業を実行します。

- TFTP サーバで設定をバックアップします。
- 設定をテキスト ファイルにコピーします。
- 設定をローカルでブートフラッシュまたは slot0: のデバイスにコピーします。

ユーザコンフィギュレーションを削除すると、バックアップした設定を復旧しなければその設定を回復することはできません。

注：テキストファイルの設定をコピーしてコマンドラインに貼り付けると、設定全体を復元できます。

Cisco IOS ソフトウェアによる Catalyst スイッチのリセット

このセクションの手順は、ルータカード、モジュラ型または固定構成スイッチ、および Cisco IOS ソフトウェアを実行する GL-3 Catalyst シリーズ スイッチに適用されます。

- ルータ カード
 - WS-X4232-L3 (Catalyst 4006/4000)
 - MSFC/MSM (Catalyst 6500/6000)
- Catalyst モジュラ スイッチ
 - Catalyst 6500/6000

- Catalyst 4500/4000
- Catalyst 固定構成スイッチ
 - Catalyst 2940
 - Catalyst 2950/2955
 - Catalyst 2970
 - Catalyst 3550
 - Catalyst 3560
 - Catalyst 3750
 - Catalyst 2900XL/3500XL
- GL-3 Catalyst スイッチ
 - Catalyst 2948G-L3
 - Catalyst 4908G-L3

Cisco IOS ソフトウェアを実行するスイッチには、実行コンフィギュレーション ファイルとスタートアップ コンフィギュレーション ファイルがあります。RAM には実行コンフィギュレーションが格納され、NVRAM にはスタートアップ コンフィギュレーションが格納されます。

Cisco IOS ソフトウェアを実行するスイッチの設定を変更すると、その変更は実行コンフィギュレーションの一部になります。

この設定の変更はスタートアップ コンフィギュレーションに保存する必要があります。保存しない場合は、次回のリロード時や電源停止時にこの設定は失われます。

これは、スイッチをリロードするか、電源を切ると、RAM に保存されている実行コンフィギュレーションが失われるためです。NVRAM に設定を保存するには、コマンドまたはコマンド `write memory` を発行して `copy running-config startup-config` します。

変更内容を NVRAM に保存しないと、変更内容は RAM からクリアされ、スイッチのリロード時のスタートアップ コンフィギュレーションには反映されていません。

Cisco IOS ソフトウェアを実行する Catalyst モジュラ型スイッチまたは固定構成スイッチでは、別のファイルに VLAN 情報が保存されます。このファイルは `vlan.dat` ファイルと呼ばれ、モジュラスイッチの場合は NVRAM に、固定構成スイッチの場合は Flash に格納されます。

これらのスイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルと `vlan.dat` ファイルを削除する必要があります。Catalyst 2948G-L3/4908G-L3 スイッチおよびルータ カードを工場出荷時のデフォルトに復元する場合は、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを削除するだけです。

これらのスイッチは VLAN Trunk Protocol (VTP) に参加しないので、VLAN 情報は含まれません。

スイッチ設定のリセット

スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、`e erase startup-config write erase` コマンドを発行します。このコマンドでは、設定レジスタやブート システム設定などのブート変数はクリアされません。

`boot` コマンドを使用して、ブート システム パラメータを変更できます。Cisco IOSソフトウェアが稼働するCatalyst 4500/4000および6500/6000シリーズスイッチでは、コマンドを使用してコンフィギュレーションレジスタ値を変更 `config-register` できます。

次の例は、コマンドを使用して、Cisco IOSソフトウェアが稼働するスイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットする方法を示し `write erase` ています。

```
<#root>
```

```
Cat2950#
```

```
write erase
```

```
Erasing the nvram filesystem will remove all files! Continue? [confirm]
```

```
y
```

```
[OK]  
Erase of nvram: complete  
Cat2950#  
Cat2950#
```

```
reload
```

```
System configuration has been modified. Save? [yes/no]:
```

```
n
```

!--- Do not save the configuration at this prompt. Otherwise, the switch !--- reloads with the current

Proceed with reload? [confirm]

y

2w0d: %SYS-5-RELOAD: Reload requested

C2950 Boot Loader (C2950-HBOOT-M) Version 12.1(11r)EA1, RELEASE SOFTWARE (fc1)
Compiled Mon 22-Jul-02 18:57 by antonino
WS-C2950G-12-EI starting...

!--- Output suppressed.

32K bytes of flash-simulated non-volatile configuration memory.

Base ethernet MAC Address: 00:05:DC:C9:79:00

Motherboard assembly number: 73-5781-08

Motherboard serial number: FAB0515A069

Model revision number: 02

Model number: WS-C2950-24

System serial number: FAB0517Q00B

--- System Configuration Dialog ---

Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]:n

00:00:16: %SPANTREE-5-EXTENDED_SYSID: Extended SysId enabled for type vlan

00:00:21: %SYS-5-RESTART: System restarted --

Cisco Internetwork Operating System Software

Cisco IOS (tm) C2950 Software(C2950-I6Q4L2-M)Version 12.1(19)EA1, RELEASE SOFTWARE (fc1)

Copyright (c) 1986-2003 by cisco Systems, Inc.

Compiled Tue 09-Dec-03 00:12 by yenanh

Press RETURN to get started!

00:00:37: %LINK-5-CHANGED: Interface Vlan1, changed state to administratively down

00:00:38: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down

Switch>

Switch>

これで、VLAN 情報以外のスイッチの設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされました。

VLAN 情報のリセット

VLAN 情報を工場出荷時のデフォルトにリセットするには、Flash または NVRAM から `vlan.dat` ファイルを削除し、スイッチをリロードします。Cisco IOS ソフトウェアを実行する 6500/6000 シリーズ スイッチでは、`vlan.dat` ファイルは `const_nvram` に保存されます。

Cisco IOS ソフトウェアが稼働する 4500/4000 シリーズ スイッチでは、`vlan.dat` ファイルは 2940、2950/295 の `cat4000_flash:` に保存されます。2970、3550、3550、3560、3570、および 2900XL/3500XL 固定構成スイッチでは、`vlan.dat` ファイルは `flash:` に保存されます。

6500/6000 スイッチで `vlan.dat` ファイルを消去するには、コマンドを発行 `erase const_nvram:` します。4500/4000 スイッチでは、コマンドを発行 `erase cat4000_flash:` します。固定構成スイッチでは、コマンドを発行 `delete flash:vlan.dat` します。

手順の例では、Catalyst 固定構成スイッチで VLAN 情報を削除する方法を示しています。Cisco IOS ソフトウェアを実行する 6500/6000 および 4500/4000 では、同じ手順をそれぞれのコマンドで行うことができます。

•

VLAN 情報を確認するには、コマンド `show vlan` を発行し、`vlan.dat` ファイルを確認するには、`dir` コマンドを発行します。

```
<#root>
```

```
Cat2950#
```

```
show vlan
```

VLAN Name	Status	Ports
1 default	active	Fa0/1, Fa0/2, Fa0/3, Fa0/4 Fa0/5, Fa0/6, Fa0/7, Fa0/8 Fa0/9, Fa0/10, Fa0/11, Fa0/12 Fa0/13, Fa0/14, Fa0/15, Fa0/16 Fa0/17, Fa0/18, Fa0/19, Fa0/20 Fa0/21, Fa0/22, Fa0/23, Fa0/24
2 VLAN0002	active	
3 VLAN0003	active	
4 VLAN0004	active	

!--- Despite the erase of the startup configuration file, !--- these user-created VLANs remain.

```

600 VLAN0600 active
1002 fddi-default active
1003 token-ring-default active
1004 fddinet-default active
1005 trnet-default active

```

VLAN	Type	SAID	MTU	Parent	RingNo	BridgeNo	Stp	BrdgMode	Trans1	Trans2
1	enet	100001	1500	-	-	-	-	-	1002	1003
2	enet	100002	1500	-	-	-	-	-	0	0
3	enet	100003	1500	-	-	-	-	-	0	0
4	enet	100004	1500	-	-	-	-	-	0	0
600	enet	100600	1500	-	-	-	-	-	0	0
1002	fddi	101002	1500	-	-	-	-	-	1	1003
1003	tr	101003	1500	1005	-	-	-	srb	1	1002
1004	fdnet	101004	1500	-	-	1	ibm	-	0	0
1005	trnet	101005	1500	-	-	1	IBM	-	0	0

Switch#

Cat2950#

dir flash:

!--- On the 4500/4000, issue the dir cat4000_flash: command. !--- On the 6500/6000, issue the dir

Directory of flash:/

```

2 -rwx      2487439  Mar 11 1993 01:25:32  c2950-i6q412-mz.121-9.EA1d.bin
3 -rwx          840  Mar 20 1993 09:20:09  vlan.dat

```

!--- This vlan.dat file stores user-configured VLANs.

```

4 -rwx      2491435  Mar 08 1993 16:14:13  c2950-mvr.bin
6 -rwx         42  Mar 01 1993 00:07:35  env_vars
7 -rwx        109  Mar 11 1993 01:23:56  info
8 drwx        640  Mar 11 1993 01:26:35  html
19 -rwx        109  Mar 11 1993 01:26:35  info.ver


```

7741440 bytes total (1088512 bytes free)

Switch#

.

Flash または NVRAM から VLAN 情報を削除し、スイッチをリロードします。

 注：初期バージョンのCisco IOSソフトウェアが稼働する6500/6000および4500/4000では、deleteコマンドが常に機



能するとは限りません。代わりに、 `erase const_nvram` : コマンドまたは `command erase cat4000_flash:`.

•

コマンド構文で `vlan.dat` ファイルを指定しないでください。ただし、Cisco IOSソフトウェアの最近のバージョンでは、6500/6000で `delete const_nvram:vlan.dat` はコマンドが機能し、4500/4000で `delete cat4000_flash:vlan.dat` はコマンドが機能します。

```
<#root>
```

```
Cat2950#
```

```
delete flash:vlan.dat
```

```
Delete filename [vlan.dat]?
```

```
!--- Press Enter.
```

```
Delete flash:vlan.dat? [confirm]
```

```
y
```

```
Cat2950#
```

```
reload
```

```
Proceed with reload? [confirm]y
```

```
4w5d: %SYS-5-RELOAD: Reload requested
```

•

リロード後、コマンドを使用してVLAN情報を確認 `show vlan` します。

コマンド出力にはユーザ設定の VLAN が表示されなくなります。工場出荷時のデフォルトである VLAN 情報だけがスイッ

チに残ります。

<#root>

Cat2950#

show vlan

VLAN Name	Status	Ports
1 default	active	Fa0/1, Fa0/2, Fa0/3, Fa0/4 Fa0/5, Fa0/6, Fa0/7, Fa0/8 Fa0/9, Fa0/10, Fa0/11, Fa0/12 Fa0/13, Fa0/14, Fa0/15, Fa0/16 Fa0/17, Fa0/18, Fa0/19, Fa0/20 Fa0/21, Fa0/22, Fa0/23, Fa0/24
1002 fddi-default	active	
1003 token-ring-default	active	
1004 fddinet-default	active	
1005 trnet-default	active	

VLAN	Type	SAID	MTU	Parent	RingNo	BridgeNo	Stp	BrdgMode	Trans1	Trans2
1	enet	100001	1500	-	-	-	-	-	0	0
1002	fddi	101002	1500	-	-	-	-	-	0	0
1003	tr	101003	1500	-	-	-	-	-	0	0
1004	fdnet	101004	1500	-	-	-	ieee	-	0	0
1005	trnet	101005	1500	-	-	-	IBM	-	0	0

Switch#

冗長モードでの Catalyst スイッチのリセット

冗長モードで CatOS を実行する 6500/6000 および 5500/5000 スイッチの場合、スタンバイ側のスーパーバイザエンジンは、アクティブ側のスーパーバイザエンジンに加えられた変更と同期します。

そのため、このコマンドでアクティブスーパーバイザエンジンの設定を工場出荷時のデフォルトにリセットすると、スタンバイスーパーバイザエンジン `clear config` も工場出荷時のデフォルトにリセットされます。

このコマンドで設定モードがバイナリモードとテキストモードのどちらに設定され `set config mode` ても、アクティブスーパーバイザエンジンで設定がクリアされるとスイッチが工場出荷時のデフォルトにリセットされます。

冗長モードで Cisco IOS ソフトウェアを実行する 6500/6000 スイッチを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行する必要があります。

•

アクティブ側のスーパーバイザエンジンで `erase startup-config` のコマンドを使用して、スタートアップコンフィギュレーションを消去します。これによって、スタンバイスーパーバイザエンジンでもスタートアップコンフィギュレーションが削除されます。

•

このドキュメントの「[VLAN 情報のリセット](#)」セクションの説明に従って `vlan.dat` ファイルを削除します。

•

コマンドを使用して、アクティブ側のスーパーバイザエンジンをリロード `reload` します。

スーパーバイザエンジンがリロード後に ROMmon モードに切り替わる場合、適切なイメージからブートするように設定されているかどうかを確認するためにブート変数を確認します。

詳細については、『[Cisco IOS システムソフトウェアが稼働している Catalyst 6500/6000 でのブートローダーイメージの破損や欠落あるいは ROMmon モードからの回復](#)』のドキュメントも参照してください。

関連情報

- [すべての製品に関するサポートページ](#)
- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。